

岩見沢市

0331 原田 和馬

1. 地名の由来

1878年（明治11年）、開拓使が幌内炭山（三笠市）へ行く人々が途中、札幌から幌内間の道路を切り開くに当たり、工事に従事する人たちのため、市内幾春別川沿いの川辺に休泊所を設け、ここで浴（ゆあみ）して疲れをいやしたといわれている。

当時の人々にとって、この地は唯一の憩いの場所として、「浴澤」（ゆあみさわ）と称するようになり、これが転化して「岩見澤」（いわみざわ）と呼ばれるようになったといわれている。

図1 岩見沢市のカントリーサイン



出典：北の道ナビ HP

2. 岩見沢の歴史

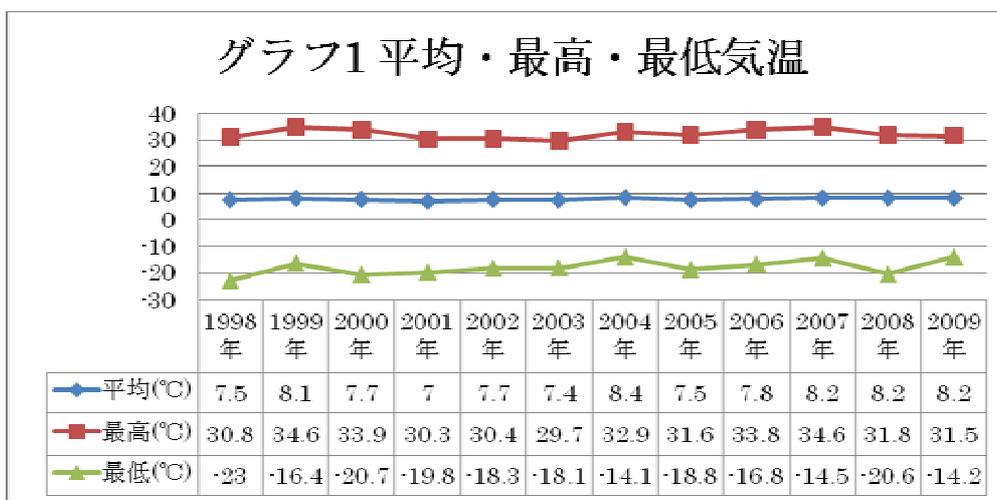
炭鉱が相次ぐ閉山の時代を迎えた事により、1980年（昭和55年）操車場は廃止され、要衝としての繁栄も曲がり角を迎える。国道12号線バイパスの開通によって郊外まで開発が進んだ事もあり、商業施設の郊外出店による中心市街地空洞化が浮き彫りになった。折しも岩見沢駅舎が2000年（平成12年）に漏電による火災で全焼した事もあり、現在、駅舎再建を柱とした中心市街地活性化事業が進められている。近年は地の利から札幌のベッドタウンとしての性格が強まる事により、空知地方における行政・産業経済・教育文化などの中核都市としての地位が揺らぎつつある微妙な立場にあり、求心力の再確立に努めている。その一環として2006年（平成18年）には北村、栗沢町との編入合併を果たした。

もともと岩見沢は石炭生産と輸送のための鉄道により栄えた街。かつては東部の山地に万字炭鉱や美流渡炭鉱など大規模な炭鉱を有したが、現在は全て閉山した。なお、現在でも炭鉱跡は残っており、見学も可能である。

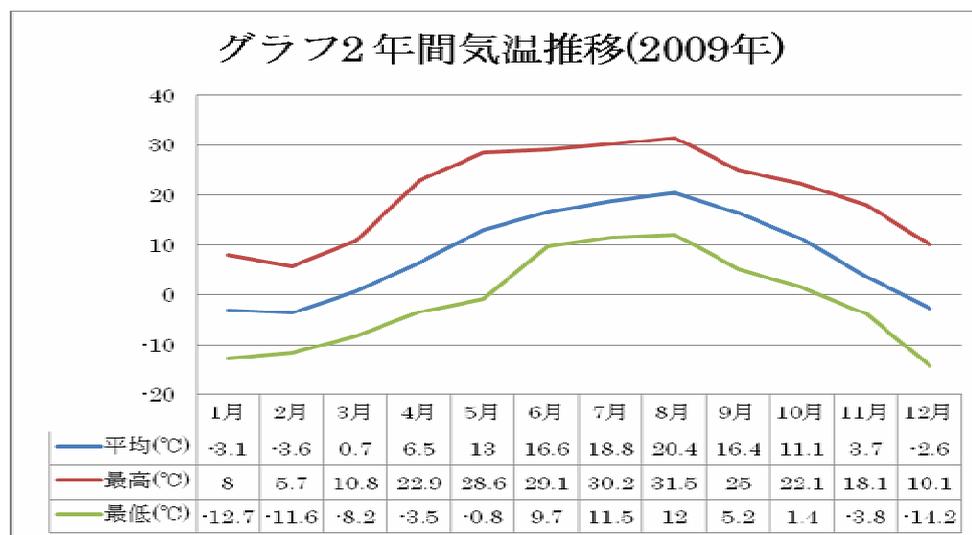
万字炭鉱について元々夕張炭鉱の探査チームは、万字炭鉱が存在した渓谷を超えて調査を行っていたこともあり、ほぼ夕張炭鉱と同時期に石炭層が発見されていたと考えられている。当初は、独立系の炭鉱会社（朝吹家）が開発を進めたが、山間僻地であり生産した石炭の輸送の目途が立たなかった。このため隣接する夕張で事業を展開していた北海道炭礦汽船株式会社（以降、北炭と省略）が1903年（明治36年）に事業を譲り受け、夕張炭鉱方面に輸送路を敷くことで生産量の拡大を図ることとした。1905年、北炭は炭鉱名を朝

がある。12月上旬になると根雪になり、積雪量も一気に増す。しかし、近年は温暖化による気候の変化の影響もあり、大雪日数や根雪になる時期が変化している。

最高気温は34.7（1994年〔平成6年〕8月10日）で、最低気温は-24.3（1957年〔昭和32年〕1月8日）。最大降水量は262.0ミリ（1981年〔昭和56年〕8月4日）であり、昭和56年に水害を引き起こした。最小湿度は12%（1955年〔昭和30年〕5月1日）。最大風速は31.4メートル（1954年〔昭和29年〕9月26日）に達した。最深積雪は180センチ（1970年〔昭和45年〕3月22日）。最早初雪は1954年（昭和29年）10月7日であった。



出典：北海道 統計課 HP

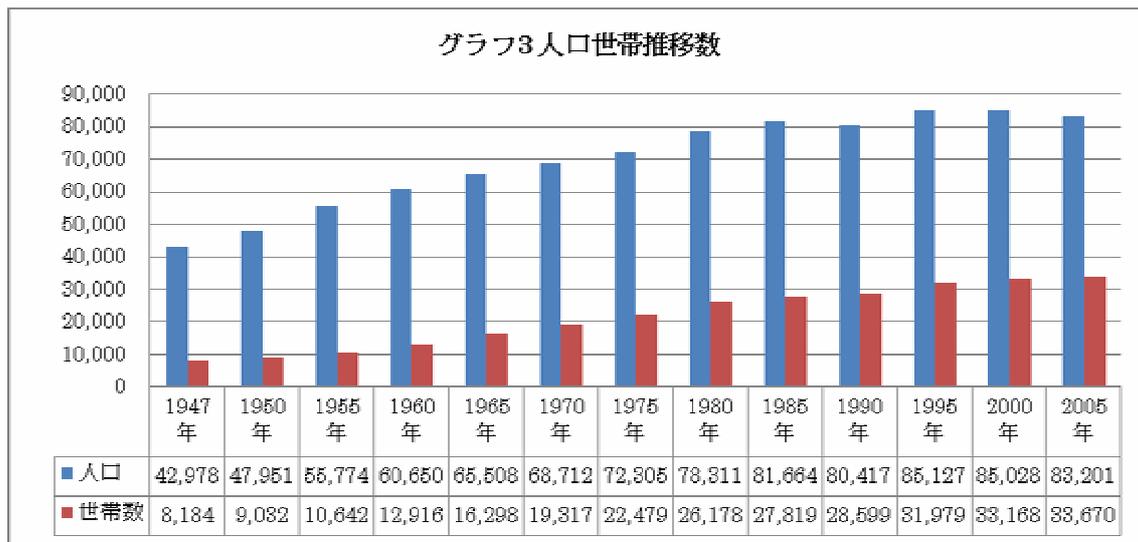


出典：札幌管区気象台 HP

グラフ1・2をみると豪雪地帯ということもあり、冬期の最低気温が低いのが特徴的である。また、近年は最高気温がそこまで高くなっていない。そのため、夏は比較的過ごしやすい気候と言える。

4. 人口・世帯数推移

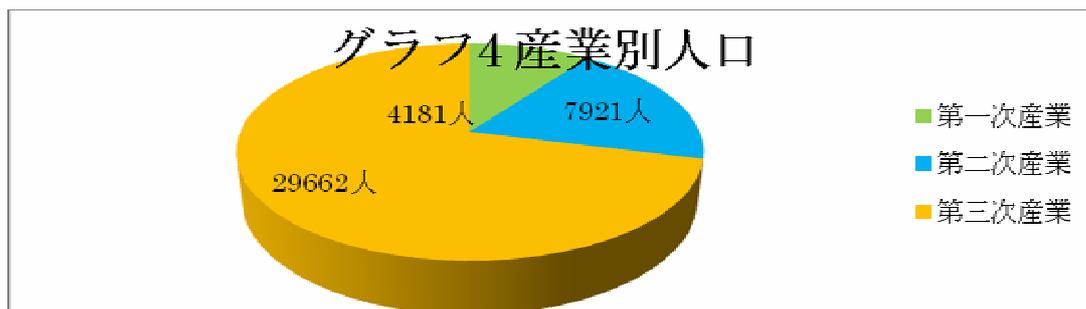
人口はここ数年で増減を繰り返している。2006年3月27日からは栗沢町・北村を編入合併したため、人口が大幅に上昇した。国勢調査が始まって以来、人口はほぼ2倍に増えている。また、ドーナツ化現象の影響もあり、上幌向・幌向など新興住宅街で人口が増えている。



出典：国勢調査 HP

5. 産業

5.1 産業別人口



出典：農林水産省 HP

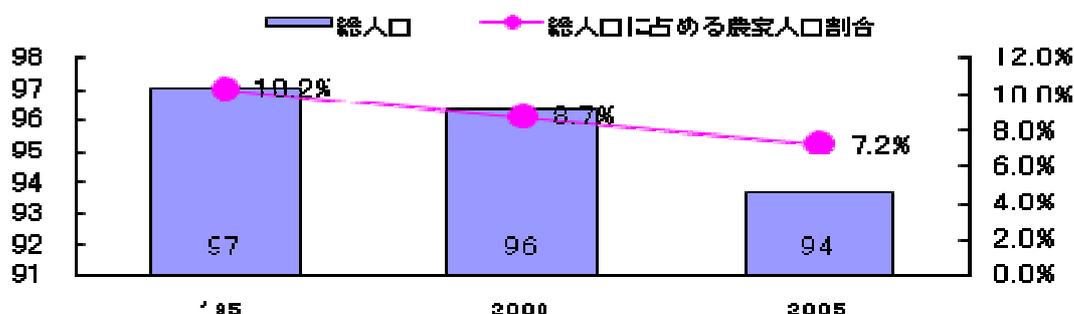
市民の人数・タマネギやコメの生産状況から見ても、第一次産業に従事する人が少ないことがわかる。また、空知の中心都市であるため、サービス業に携わる人が多い。

5.2 農業

コメ・タマネギの道内有数産地である。水稻収穫量 42,600t、水稻作付面積 8,250ha はいずれも道内第1位(2007年度)であった。農家戸数 1,743戸(2007年)、農業産出額 188

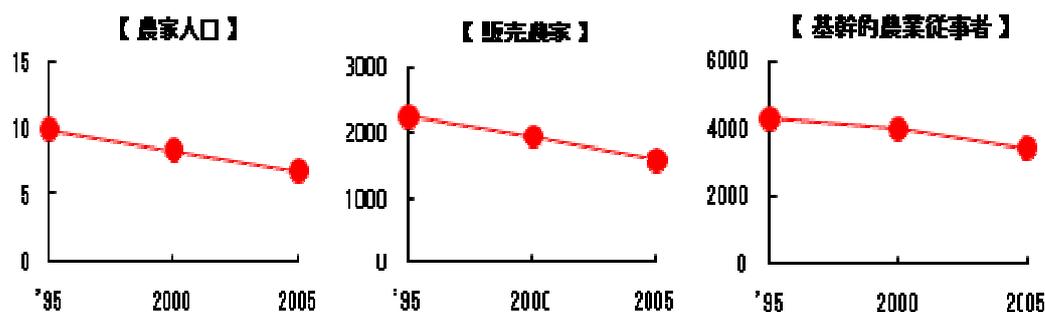
億 1000 万円 (2006 年): 合併前旧 3 市町村分の合算。グラフ 5・グラフ 6 より、農業人口・販売農家・基幹的農業従事者はすべて減少していることがわかる。第一次産業に携わる人々の経済的困難が見て取れる。

グラフ 5 農業従事者の割合



出典：農林水産省 HP

グラフ 6 農業人口・販売農家・基幹的農業従事者の 10 年間の動向



出典：農林水産省 HP

5.3 商工業

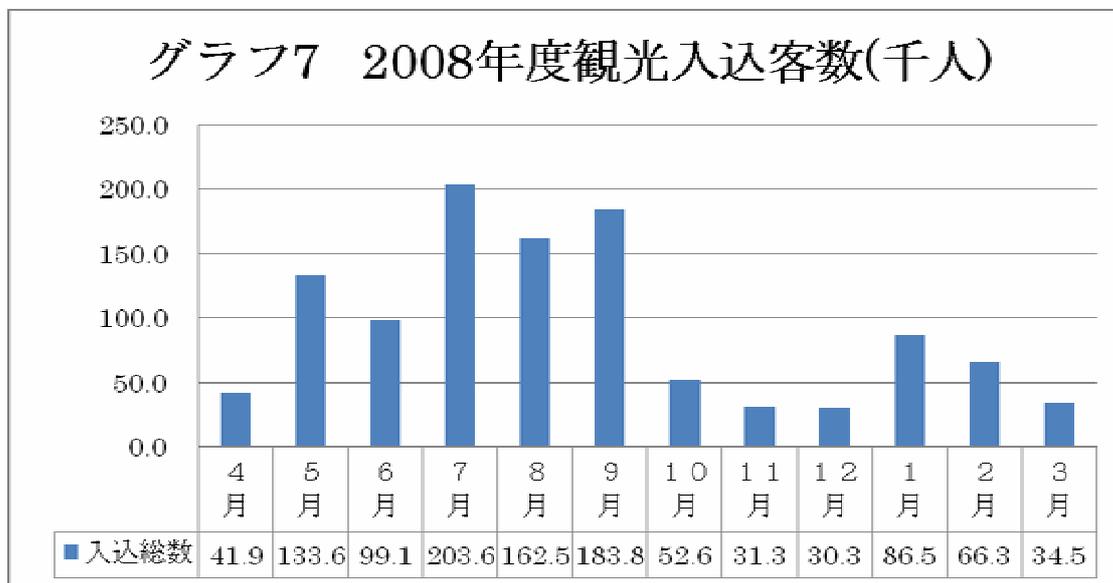
上幌向・岡山・南空知流通・栗沢・道央栗沢の 5 つの工業団地を有す。製造品出荷額は 660 億 9511 万円 (2008 年) であった。大規模・中規模商業施設が数多くあり、周辺市町村からの買物客が多く出入りすることで経済が潤う構造となっている。過去に三笠市や美唄市の炭鉱が閉山する度に、市内の商店の売上が大幅に落ち込んだこともあった。年間商品販売額は 2936 億 6500 万円 (2007 年)。卸売業は 1965 億 9500 万円、小売業は 970 億 7000 万円 (2007 年) であった。近年では市街地よりも郊外に位置する大和町でユニクロ・SPORTS DEPO・ホームックなどのショッピングモールが建設され続けている。

6. 観光

6.1 観光入込客数

グラフ 7 をみると、7・8・9 月に客数が上昇していることがわかる。これは、7 月に彩花

祭り、8月には野外音楽堂キタオンでのミュージックライブ、9月には神社祭りや百餅祭りが開催されていることが原因と言える。また、1・2月に増加しているのは、ドカ雪祭りがおこなわれるからであろう。



出典：北海道 統計課 HP

6.2 観光

・ふるさと百餅祭り

1983年、岩見沢開基100周年を記念して、有志数名ではじめた祭りである。五穀豊穰、商売繁盛、健康長寿、岩見沢の発展を祈念し、世界一の大白（直径2.4メートル）重さ（4トン）と杵（200キロ）で1俵（60キロ）の餅を、百餅若衆の音頭に合わせてヨイトマケ方式でつきあげる、ダイナミックな祭りと言える。

図4 いわみざわ百餅祭りの様子



出典：岩見沢市役所 HP

・いわみざわ彩花祭り

バラ園では、2万2千株のバラやハマナスが鑑賞できるほか、コンサートなどが行われる。また、あやめ公園では紫紺艶やかな15万本のあやめ、花菖蒲が咲き誇るなか、野だて、箏曲、盆栽展なども行われる。その他、市街地では観光踊りパレード、各種芸能大会など盛りだくさんの催しでにぎわう。

図5 岩見沢彩花祭りの様子



出典：岩見沢市役所 HP

・ JR 岩見沢駅

2000年12月10日未明に漏電が原因で出火し旧駅舎が全焼する。現在の駅舎は全国初の試みとなる一般公募型のコンペによりデザインを採用し2009年3月30日全面開業、2009年度のグッドデザイン賞大賞を獲得した。

図6 JR 岩見沢駅



出典：Wikipedia

図7 北海道グリーンランド



出典：北海道グリーンランド HP

図8 かまだ屋



出典：かまだ屋 HP

グリーンランドの観覧車は日本最大である。急流すべりやジェットコースターなどアトラクションが充実している。かまだ屋のカレーうどん・そばは格安で有名である。

参照

Wikipedia：

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B2%A9%E8%A6%8B%E6%B2%A2%E5%B8%82>

岩見沢市役所 HP：<http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/>

農林水産省 HP：<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/>

気象庁 HP：<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

北海道グリーンランド HP：<http://www.h-greenland.com/>

北の道ナビ HP：<http://www.northern-road.jp/navi/>

北海道 統計課 HP：<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/>